

ICAS 活動予定①

◇ 第2回ベトナム・日本国際シンポジウム ◇ - 気候変動と持続可能性に関する国際会議 -

ICASのビッグイベントの1つであるベトナム・日本国際シンポジウムが今年度も開催されます。日本からは20名以上の研究者や大学院生が参加予定で、ベトナムをはじめ諸外国の研究者と気候変動や持続可能性に関する討論を通して交流を図ります。

日時：11月28日(金)・29日(土)
場所：ベトナム・ハノイ（ハノイ科学大学大会議場）

◇ 主要テーマ ◇

1. Global Climate Change: Mechanism and Process
2. Climate-Change-Induced Natural Disasters and Their Lessons Learned
3. Orientation Ideals and Techniques for Mitigation and Adaptation of Global Climate Change
4. Human and Social Sciences in Mitigation and Adaptation of Climate Change
5. Remediation, Rehabilitation, and Aftercare of Damaged Sites.
6. Waste Management and Geoenvironmental Engineering

お問い合わせ先：ICAS スタッフ・折笠志津子
TEL&FAX：0294-38-7097

ori425@mx.ibaraki.ac.jp

ICAS 活動予定②

◇ 第3回 ICAS 第1部門ワークショップ ◇ - 気象・地盤・都市工学から見た地球変動と自然災害 -

日時：12月12日(金) 9:50~17:00
場所：茨城大学インフォメーションセンター
(水戸市三の丸 1-5-38)

お問い合わせ先：ICAS スタッフ・折笠志津子
TEL&FAX：0294-38-7097

ori425@mx.ibaraki.ac.jp

◇ プログラム ◇

挨拶 (9:50~10:00) 安原一哉 (茨城大学)

講演 (10:00~15:40)

- (1) 都市降水の実態と数値シミュレーション (日下博幸・筑波大学)
- (2) 地球温暖化と土砂災害 (仮) (酒井直樹・防災科学技術研究所)
- 昼休み (12:10~13:30) -
- (3) 温暖化影響と気候安定化レベル (脇岡靖明・国立環境研究所)
- (4) IPCC 報告書作成の道のりと効果—ソフトパワーを作る新しい科学の方法 (三村信男・茨城大学)

座談会 (15:55~17:00)

テーマ：地球変動や自然災害に対する各学問のコラボレーションと ICAS の行方
ディスカッションリーダー：安原一哉 (茨城大学)

ICAS/IR3S Calendar

4月	新年度スタート 4/7~ ICAS 研究発表会・開始 毎週月曜日 14:00~ 4/17・18 IPCC-IR3S サイエンス・シンポジウム	9月	9/12・13 IR3S 後援：日本学術会議(SCJ)国際会議 9/24 IR3S-ICB 2008 ジョイント・シンポジウム 9/26 第3回いばらき地域サステナワークショップ 9/28 霞ヶ浦研究会年会	
	5月		5/19 第1回 ICAS サステナフォーラム	10月
6月	6/4 第2回いばらき地域サステナワークショップ 6/14 第1回集中講義「サステナビリティ学入門」 6/28 第2回集中講義「サステナビリティ学入門」	12月	11/1・2 第4回茨城大学国際学生会議 11/8 ICAS・TIEPh(東洋大学)共催国際セミナー(土浦) 11/28・29 第2回ベトナム・日本シンポジウム(ハノイ)	
	7月		7/9 第2回 ICAS サステナフォーラム 7/12 第3回集中講義「サステナビリティ学入門」	1月
8月	8/9~22 IPoS2008 開催 (タイ)	3月	2月	IR3S 公開シンポジウム アジア・メガデルタ・シンポジウム "Cities at Risk" (バンコク)
				3/2~4 IR3S 共通コア科目「サステナビリティ学最前線」

*網掛けは継続される企画です

ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで

icas@mx.ibaraki.ac.jp

ICAS 活動報告

◆ 第3回いばらき地域サステナ・ワークショップ ◆

9月26日(金)に水戸キャンパス理学部インタビュースタジオにおいて、いばらき地域サステナ・ワークショップが開催されました。今回で第3回目となるワークショップは「見える化の実践と効果」がテーマで、茨城県におけるCO₂の排出量や濃度の実態に関する報告の他、NPOによるエコロジーを意識した商店街活性化やガールスカウトによるエコ・キャンプの取り組みなどが紹介されました。

また総合討論では今回のテーマに関連して、家庭の省エネ・モニタリングやCO₂排出の「見える化」の次のステップなどが議論されました。さらにエコ・カルタや環境教育用の実験機材の展示も行われ、環境教育や啓蒙活動に携わる方々の実践が視覚的にも紹介されました。



◇ 今年も海外からの教授がぞくぞく来日！ ◇

今年度も ICAS では海外から著名な研究者をお招きして、講演やセミナーなどで協力していただく予定です。ここでは今年で3回目の来日となるオークランド大学名誉教授の John E. Hay 先生 (ICAS 特任教授) からのメッセージを紹介します。

☆☆☆☆☆☆☆☆

現在、私と妻の Helen は ICAS で3回目となる約2ヶ月間の滞在の最中です。私は研究や教育を通じ、妻は日本語と英語を織り交ぜた人々との会話などを通じて、ICAS “ファミリー” と過ごす時間をとても楽しく感じています。この3年間を振り返ると、地球温暖化が世界の経済、社会、生態系などへ既に深刻な影響をもたらしたという事実が急速に増え、非常に心配するようになりました。さらに、ICAS の影響力が強くなってきていることも印象に残りました。ICAS の研究や教育活動は日本だけでなく国際的にも気候変動の科学と政策に対して、その存在感が増しています。

それと同時に、私たちの世界はとても多様でありながら、多くの共通の課題に直面していることも忘れてはなりません。これらを解決するためには、協調する他ありません。学生と研究者の双方が国際交流をすることが大切なのは、このためです。他の人々と私の持つ知識を共有するだけでなく、自分自身も学ぶ良い機会となっています。学んだのは、研究や科学の話だけでなく、日本での生活などから、さらに多くを学ぶことができました。おかげで素晴らしい冬の富士山を眺めることもでき、日本と日本の人々にとても感謝しています。



(翻訳は田村誠・ICAS 特任研究員)

☆ 第2回国際教育シンポジウム ☆

12月11日(木)に水戸キャンパス理学部インタビュースタジオにて第2回国際教育シンポジウムが開催されます。このシンポジウムは来年度より本格的に開始される茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラムの一環で、サステナビリティ学教育に関する実践演習や「ディレンマ・ストーリー」による学習方法などについて著名な研究者に講演をしていただく予定です。

ICAS のメンバーも本プログラムの運営に大きく関わっており、ICAS が取り組む教育活動のうちの大きなプロジェクトです。興味のある方は ICAS にお気軽にお問い合わせ下さい。



ICAS メンバー紹介

原口弥生

(はらぐち やよい)

人文学部・准教授
おひつじ座・A型

こんにちは、人文学部の原口です。専門は環境社会学です。ICAS では、これまで3回開催された「いばらき地域サステナ・ワークショップ」のコーディネートを担当しました。嬉しいことに、ワークショップに参加された方たちのあいだで自然発生的にネットワークが形成されつつあります。

福岡出身ですが、大学院の修士課程をアメリカ南部ニューオーリンズで過ごしたこともあり、博士論文は、1980年以降アメリカで注目されている人種的マイノリティによる環境運動、「環境正義運動」について書きました。温暖化については、アメリカ諸州で実施されている排出権取引について聞き取り調査を行ったことがあります。サステナビリティ研究に、環境社会学の観点からなんらかの貢献ができればと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。

ICAS on MEDIA

==== 茨城新聞好評連載中 ====

10月21日(火)から「バイオエタノール」シリーズの連載が始まりました。主に ICAS 第2部門のメンバーが執筆を担当します。

Editor's Note

最近寒くなってきました。が水戸キャンパスには Hay 先生、奥様の Helen さんを迎え、楽しく温かい時間を過ごさせていただいています。農学部にも新しい特任教授がいらっしゃいました。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいますが、いい思い出をたくさん作っていただきたいです。

これからも、ICAS News をよろしくお願い致します。

ご意見・ご感想などお待ちしております。